

## 講演

## President-electの立場から日本の歯科医療と教育の国際化を考える

千田 彰

## ●抄 録●

ICDは1920年に二人の創立者によって、歯科医師としてその専門領域の知識と高い倫理性をもって、全世界の社会と歯科医学・医療の発展のために貢献するため国際的な交流の場を設ける目的で組織された。したがってICD組織そのものが国の体制、言語、習慣などの違いを超えた、歯科医師としての共通認識を持つ集団の国際組織である。ICD存立の信条、基本理念こそが歯科医学、医療の国際化を具現したものであって、私たちフェローはこの精神に基づいてこれからも社会と歯科医学・医療の発展に貢献していかねばならない。

キーワード：人道支援、1本の傘、基本理念、100周年記念祝賀会

## I. はじめに

ICDの次期国際会長の立場で日本部会フェローに、ICDの根幹をなす国際交流、国際的な社会貢献活動を紹介しつつ歯科医学および医療の国際化について述べる。

## II. ICDの創立

ICD創立に関しては、故森山元国際会長が詳しく報告している<sup>1)</sup>。また創立者の奥村鶴吉、ルイスオットフィーについては、橋本国際理事が本部歴史委員会調査の結果をまとめ、報告している<sup>2)</sup>。両祖は歯科医師という職責を持つ人間が、国の体制、人々の言葉、習慣などの違いを超えて、すなわち「国際」的に、歯科医学を学び、歯科医療につく人間であるという共通性のもと、情報交換しつつ社会と歯科医学・医療の発展

に貢献して行こうと話し合った。

## III. ICDのMotto (信条、モットー) と Core Value (核心的な意義)

ICDの信条と存立の意義について表に示す(表1)。すなわちICDのフェローはあくまでも歯科医師、歯科医療人としての職業的な高い倫理観をもち続け、また職業的な知識と技能について向上心を持ち、全世界の歯科医療界、社会に奉仕、貢献するように努め、フェローによるこれらの卓越した奉仕、貢献を歯科医療界、社会に知らしめることをその存立意義としている。現代では、交流や情報の交換は交通網とITの発達によって何ら特別なものではない。

## IV. ICDのプロジェクト

ICDが具体的に行っている活動は、①人道支援としての発展途上国における無料の歯科医療活動とこれらに必要な資金の調達、②歯科医療における感染予防と医療安全、③抗菌剤の有効な使用である(図1)。ボランティア活動については、現在実働しているものは100を超える。Project委員会では、本活動の一層の可視化を図るため“Projects Map”(世界地図上のマークをクリックすることによって、Project名、地域、連絡先などが画面上に現れる)を本部websiteに掲載

※冬期学会講師

(せんだ・あきら)  
歯学博士  
愛知学院大学短期大学部 非常勤講師  
愛知淑徳大学健康医療科学部 非常勤講師  
ICD次期国際会長  
ICD日本部会理事



表1 ICDのMottoとCore Value

Table 1 College Motto and ICD Core Value

<p><b>Motto (信条)</b> 奉仕と奉仕の機会を知らしめる</p> <p><b>Core Value (核心的な意義)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーシップ 最高水準の専門能力と倫理性を保つ</li> <li>・知らしめる 専門職域と社会に対する卓越した貢献を全世界的に知らしめる</li> <li>・人道主義 人道的な支援促進、実施して口腔領域の疾患の予防と治療の方法を養う</li> <li>・専門領域の関係 全世界の歯科医療者間に、より親密な関係をもたし、普遍的な講演会を催し、専門領域の最高の知識を維持する</li> <li>・教育 全世界の歯科的知識の発展と普及を図り、歯科専門領域の発展に貢献する</li> </ul>
--

している。

私自身も1997年からモンゴルの僻地や孤児院を毎年訪問して無料の歯科治療を行って来て、モンゴル国立医療科学大学との交流も行っている。23年間続けることによって、モンゴル歯科医学・医療の発展にそれなりの寄与を果たせたと考えている。なおモンゴル歯科界はICD Regionとして国際部会 (Section XX) に属すことになった (図2)。

## V. ICD創立100周年記念

両創立者が、ICD創立について東京で話し合い、2020年に100周年を迎える。国際本部Centennial Committeeでは、この祝賀行事に向けて資金調達始め、開催告知活動などを行なっている。現在までの企画、決定によれば：

### 1) 開催日時 (定例の国際理事会含む) :

- ・11月11日 (終日執行部委員会、午前または午後国際理事会各種委員会)  
(夕方、国際理事会関係者Receptionを徳川美術館、同ホール等で開催予定)
- ・11月12日 (終日国際理事会)
- ・11月13日 (午前中に人道援助に関するシンポジウム、夕方100周年記念祝賀会)

### 2) 開催地・ホテル：名古屋東急ホテル



図1 ICDの活動

Fig. 1 ICD Projects



図2 モンゴルでの無料歯科治療 (孤児院での診療後)

Fig. 2 Charity Dental Service at a Children Home (After the mission)

〒460-0008 名古屋市中区栄4丁目6-8 TEL 052-251-2411

### 3) その他 :

- ・以下のwebsiteで詳細が紹介されている (順次更新)  
<https://icd100.org> (ICD本部のホームページ、ここから<icd100>をクリック)  
または<https://icd100.org/welcome/> (100周年祝賀会のページで近日中に参加申し込み、ホテル予約、ツアー等ができる)

なお最近、日本部会編集委員長今村嘉宣理事の努力で、奥村鶴吉に関する多くの貴重な資料が東京歯科大学資料室から多数発見され、その中で1978年10月28日にICD創立50周年記念の講演会が東京歯科大学で開催され、100名を超すICDフェローが米国から参加したという報告があった<sup>3)</sup>。

2020年に“The First Centennial Celebration”をICD誕生の地、日本で祝うことは、100周年委員会も「100年の旅を経て、再び誕生の地、日本へ」と謳って

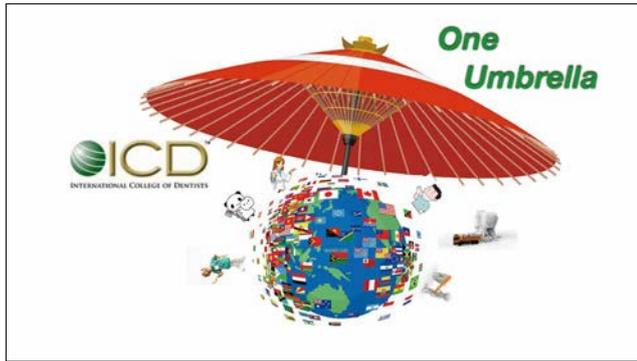


図3 ICDのフェローは“1本の傘”のもとにいる  
Fig. 3 All ICD Fellows are under “One Umbrella”

いる。ぜひ多くの日本のフェローに参加して頂きたい。

## Ⅵ. おわりに

日本のICDフェローも、基本的に直接ICDのフェローである。したがってフェロー各自の帰属意識は“One Umbrella”のもとICDになければならない。そのためにはまず歯科医師として国境を超えた共通認識のもと、歯科医学、歯科医療を通して人道的支援

などの社会貢献に努めて行く意識をもつべきである(図3)。

現代社会は情報交換、通行往来で国境の枠が薄れつつあり、海外の情報はまるで隣家の出来事のように瞬時にパソコンやスマホに飛び込んでくる。私たち現代人は否応なく国際的な渦の中に置かれている。ICDフェローの全てが、すでに国際人なのである。

## 参考文献

- 1) 森山徳長：海外各国のICDの現状、主に国際的な活動について. *The Journal of International College of Dentists JAPAN Section*. 40(1): 14-18. 2009.
- 2) 橋本光二：ICD創設者奥村鶴吉先生に関する再調査の報告—国際理事の委員会活動を通じて—. *The Journal of International College of Dentists JAPAN Section*. 46(1): 8-13. 2015.
- 3) 佐藤貞勝：国際歯科学士会 (I.C.D) 創立50周年記念 日米合同記念講演会母校で開催される. *東京歯科大学同窓会報*. 186: 23-24. 1978.

## Globalization in Japanese Dentistry and Dental Education —A View of President-elect, ICD

Akira SENDA, D.D.S., Ph.D., F.I.C.D, F.A.C.D.

*President-elect, ICD*

In 1920, the two founders discussed on establishing of an organization that would contribute developments of societies and dentistry worldwide to exchange between dental professions and serve people of all over the world through advanced dentistry. The ICD (International College of Dentists) was founded based on their discussion. Therefore, it is recognized that ICD organization is an international organization itself nevertheless differences of languages, cultures, political systems and so on, and the motto and core value of the organization realizes the internationalism in dental science and practice in the all of the world. Hence, we, all fellows of ICD should try harder to serve for developments of society and dentistry worldwide.

**Key words** : Humanitarian Support, One Umbrella, Core Value, Centennial Celebration